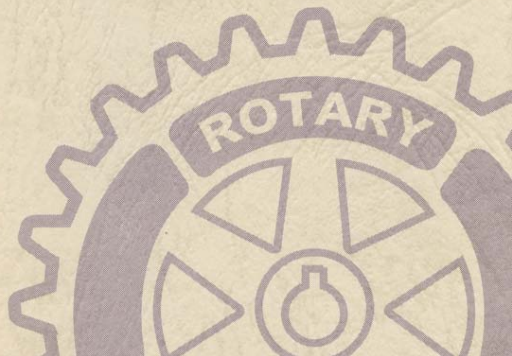


Rotaryってなんですか？



はじめに

国際ロータリー第2660地区

バストガバナー 戸田 孝

いま、ロータリアンの多くが「ロータリーとはなにか」について曖昧模糊としたまま、ロータリーライフを続けているのではないか、大阪大手前ロータリークラブはこのような現状を少しでも改善したいとの熱い思いから「ロータリーとは何か、ロータリークラブの役割は何か」について、私に卓話を依頼されました。

この卓話をもとに、ロータリーへの理解を深め、クラブの活動を活発にし、ロータリアンの人間性を高めていきたい等の思いで冊子にまとめられたのです。ロータリー情報の基本を普及させる意味においてとても意義あることであると、本当に嬉しく思っています。

大阪大手前ロータリークラブは、私が地区ガバナーをつとめた1982～1983年度に創立されたこともあって、その成長に常に深い思いと関心を持っています。

この企画を実行するにあたり、私が多く先輩から学んだロータリーをクラブの皆さんと幾分かでも共有することが出来ればこれ以上の喜びはありません。

私のロータリーの恩師である平沢バスタガバナーは

「ほんもののロータリアン！ それには先ず自ら仕事に燃えねばならぬ。日々の生活を友情と奉仕の中で楽しく生きねばならぬ。よき子供であり、よき父母であり、よき社会人であらねばならぬ。ロータリアン諸君！ 今こそ燃えに燃えよう。そしてほんもののロータリアン、ほんものの世界人になろうではないか。」と語っておられるように、ロータリーの中から何か素晴らしいものを身につけていただくために「ロータリーとはなにか」の冊子がいささかなりとも皆さんのお役にたてば、この上もない喜びであります。

大阪大手前ロータリークラブが「楽しく為になるクラブ」として発展されることを心から期待するものであります。

目次

はじめに	1
■ ロータリーの誕生とその成長	7
■ 日本のロータリー	7
A ロータリー雑感	9
1. ロータリーとは I	9
ロータリーとは II	11
ロータリーとは III (事業繁栄の秘訣)	12
2—I. 新会員に	14
2—II. 新会月への歓迎挨拶 (ロータリーの魅力)	17
3. 出会いとは (二期一会)	19
4. 山口バストガバナーの話	20

5.	出席について（メイクアップ）	21
6.	会員の親睦の推進	28
7.	親睦と奉仕	30
8.	ある会員の感想（入会3年）	31
9.	ロータリアンの特権Ⅰ	33
10.	ロータリアンの特権Ⅱ	35
11.	ロータリー6つの活力源について	36
B		
	ロータリーの基本について	39
1.	ロータリーとは	39
2.	ロータリーの目的	39
3.	国際ロータリーの目的	40
4.	ロータリーの綱領	40
5.	ロータリー精神	42
6.	奉仕の理想	43

7 決議 23—34

8 四つのテスト

9 ロータリーモザイク（ハロルド・トーマス著）より

10 職業についての概念

11 Profits の考え方

12 スピーチの事例

「ロータリーとは何か、
ロータリークラブの役割は何か」

国際ロータリー第2660地区

バストガバナー 戸田孝

1. ロータリーの真の姿とは

2. ロータリーの歴史と理念

3. ロータリー創立と変遷

44

47

49

50

52

54

58

61

67

69

a.	ロータリーの創立	70
b.	2つの標語	76
c.	決議23―34	78
d.	決議23―34の概要	80
e.	ロータリー綱領の変遷	84
4.	職業奉仕	85
5.	現在の世相と職業奉仕	88
6.	栄光に輝くロータリアンたちの幸福	90
7.	21世紀ロータリーは……その道標となるもの	93
	著者プロフィール	97
	編集後記(大阪大手前RC)	99
	参考文献	101
	「決議23―34(全文)」	111
	「道徳律(全文)」	116
	電子文庫について	116

■ロータリーの誕生とその成長

今から97年前の1905年、そのころ経済恐慌で人心の荒れすきんでいたアメリカ社会、特にシカゴの状態を憂えた、青年弁護士ポール・ハリスが、3人の友人と語らって、2月23日、第1回の会合を開いたのが、ロータリークラブの誕生であります。ロータリーとは、会員が持ち回りで順番に、集会を各自の事務所で行ったことから名付けられました。

このクラブは着実に成長し、現在163の国家に広められ、クラブ数約29、900、会員総数は約1、190、000人に達しています。これらクラブをメンバーとして国際ロータリーが構成されています。

■日本のロータリー

日本のロータリークラブは1920年（大正9）、当時、三井銀行の重役であった米山梅吉氏が、初めて東京にこれを創立し、1922年大阪ロー

タリークラブが創立されました。その後第2次世界大戦のため、一時国際ロータリーから脱退するのやむなきに至ったこともありましたが、その間もよくロータリーの精神を堅持して会合に努め、その神髄と組織を維持し、戦後国際ロータリーに復帰するや、ますます発展、現在ではクラブ数約2、300、会員数約1、118、000人に達し、なおすべての都市、すべての町にその理想の翼を広げる努力を続けてます。会員は地域内の理想にもえる堅実な実業家、専門職業人の中から原則として、1業種1人を選び、過1回のクラブ例会出席によって、各種職域人の交友を通じて地域社会へのより多くの奉仕の機会を得ようとはかっています。私達のクラブはRI第2660地区に所属しています。地区の管理運営はRIの役員である地区ガバナーが担っているのです。

A ローターリー雑感

1. ローターリーとは I

ロータリークラブの会員は一業一会員を原則として選ばれた地域社会における指導者達です。クラブ内では同業者間の利害関係を離れて、胸襟を開いて語り合うことができます、どんなに立派な肩書きをもった会員もお金持ちもクラブへくれば、みんな平等だということですよ。

「ロータリーの例会は銭湯だ。一週間の疲れ、よごれを洗い流すために集まってくるのだ。ここでは、みんな裸になって語り合うのだ。」といわれるように、日々仕事に全力投球している会員の緊張感をときほぐし、親しい会員どうしの語らいのなかから、さらなる仕事への意欲を高めていくことが期待されています。

クラブの例会で多くの違った業界の優れた経営者からインスピレーション

ンを受けて自分自身が人間的に成長するとともに自らの仕事の質を高め、所属する業界にも役立てていくことにあります。

ロータリークラブは会員一人一人に奉仕の理想（他人の身になってものを考え、人のお役に立つ行動を）というロータリーの心を鼓吹する場なのです、これら全てを可能にするのは例会出席にあります、一週間の例会には義務感からではなく楽しみに満ちた社会生活のオアシスにしたいものです、20年、30年とロータリーの中にいることで言責に言い表せない滋味があふれ出します。このようにしてロータリーは人を作っていくのです。ロータリークラブでは気兼ねのない楽しい雰囲気になることができ、あたかも少年の心に帰する思いがします。人は他人の友情に反応する心を持ち、考え方に弾力性をもっている間、人は老いないものです。人を発展させ、少年の心を生かそうとするもの、これがロータリーであります。

ロータリーとはⅡ

ポール・ハリス著「ロータリーへの私の道」の序文に「ロータリーとは何だ？ この間には何千という答えが何千という人によつて用意された。しかし、これに答えるのは依然として難しい。けれども、ロータリーが我々に何をしてくれたか、ということを考えてこれらは割合に簡単だ」。彼は、ある人の言葉を引用し「もし、ロータリーのお蔭で私たちが、人生とか人間に対して温かい見方をすることができるようになったなら、つまり、人生とか人間に対して、暗い意地悪いイメージを抱かず、温かいイメージを持つことができるようになったなら、そしてもしも、ロータリーが私たちに全てに対して広い心を持ち、他人の長所を認められるような心を与えてくれたならば、また、もしもロータリーのお蔭で人生の喜びと美しきを自分でも取り入れ、他人にも施すというタイプの人たちと快いおつき合いができるようになったとしたなら、そうだとしたなら、これで我々がロータリ

ーに期待していることの全てをロータリーは我々に与えてくれたことにな
る」と、書いていますのです。

ロータリーとは Ⅲ (事業繁栄の秘訣)

「ロータリーは親睦と奉仕の調和あることは、よく解るとしても、ロー
タリアンの事業が順調に機能していなければロータリークラブに在籍する
ことはできない。いったいロータリーと事業経営とはどんな関係にあるの
か気になるところである。ロータリーが他の団体と決定的に異なる特徴とし
て職業奉仕がある。ロータリーの目的を達成する為の最も重要なロータリ
ー綱領 (Object of Rotary) の本文に「会員それぞれの事業の根底にサー
ビスの理念を定着させ、力強く育て上げること。」と会員の実業倫理の高場
をうたっている。これを説明するためにアーサー F. シェルドンの言葉を
引用すると、「商売は利益を上げなければ成立しない。経営者が利益を獲得
するのに真剣になるのは当然のことである。しかし一体、利益はどうすれ

ば得られるのか、社会のニーズを調査し、アイデアを大切にすゝる等の経営努力に加え、特に大切な事は、相手の身になつて考へる、所謂サービス
の心を取引に適用し、取引を続ける事で客との信頼関係がだんだん深くな
つていく。このような商取引を永年続ける事で世代を越えて信用という精
神的なものが築かれ、これによつて事業の永続と繁栄が築かれるのである。
即ち利益は奉仕に宴空でもたらさ些るのである。」

優れた奉仕が優れた報酬に値する事は、火と熱の関係と全く同じである。
小さい火には小さい熱が、大きい火には大きい熱が与えられるように、奉
仕が大きければ大きいほど報いられるところも大きくなる。

即ち「最も良く奉仕する者、最も多く報いられる。」(The Pronts Most Who
Serves Best) とロータリーの歴史に残る実績倫理の原理を発表している。
ロータリーは人間の倫理観を高める運動であり、ロータリーの実業倫理思
想は、実業を繁栄に導く為の正しい道であると評価されている。

2・I 新会員に

あなたをクラブのメンバーとして迎えるということは、クラブにとつてどういう意味があるのでしょうか。先ず第1に、ロータリーの理想とする奉仕の道を、あなたの所属する業界や団体に広めていただく為に、クラブは貴方を適任者と認め、貴方をクラブから奉仕の全権大使として貴方の業界へ派遣しようというのです。第2に、クラブの他のメンバーは貴方の職業生活、社会生活における体験を高く評価し、貴方とまじわりを深めることによつて、自分達の奉仕の道を更に高めてゆきたい、人間としても向上してゆきたい、と願っているということなのです。

このようなわけで、ロータリーは会員を選ぶのに、一業種一人という職業分類の原則を守り、できるだけその地域社会の違った業種から代表者を集めるようにしています。そうすれば同業者間の利害関係を離れて、胸襟を開いて語りあえるし、また自分の知らない世界の知識を得ることもできるといふものです。またクラブの方からみても、地域社会のあらゆる職業

を網羅し、すべての業界にロータリー精神を涉透させることが出来るということになるでしょう。

ここで、ロータリー精神とは何なのか。簡単に言葉で表現すれば、「一人一人が他人の立場に立つてものを考え、他人のお役に立つ様な行動をしよう」ということです。

自分のことばかり考えていけば、平和な住み良い世の中にはならない。お互いに相手の立場になって考える思いやりの心が大切なのです。

「情は人の為ならず」という名句の如く結局はそれが自分もしあわせになる道であり、ロータリーのいう奉仕というのはそこから出てくる行為なのです。

そしてロータリー・クラブという組織は、そういう精神を鼓吹し、そういう奉仕の道に熱意を燃やす人を育てようとする学校なのです。

あなたはこの学校に入られました。ところがこの学校は入学はあっても卒業というものがありません。そこがまたこの学校のすばらしいところで、あなたはロータリーを学ぶに従って楽しくなり、ロータリーの道の無限で

あることを知るに至るでしょう。

最高の善を目指しながら常に次善にとどまるのが人間の宿命である限り、人生の学校に卒業は無いのが道理です。然し卒業が無いから楽しいのです。

どんなに肩書が立派な会員でも、人間である限り未完成で、だからこそまたロータリーへ来たら、みんな平等だということです。胸襟を開き勲章をはずしてロータリーの襟章一つで話し合いました。

次に、ロータリーは国際的大組織ですから当然一定の基準があります、又いろいろのルールもあります。貴方はこれらを憶えようとしても無理です。とにかくクラブへ出席することが第一です、出席して何かの役を務められることがロータリー会得の最短距離なのです。だから初心者にたいしては、「ロータリーは出席することと見つけたら」という言葉が大切であると言えるでしょう。

2・II. 新会員への歓迎挨拶（ロータリーの魅力）

ロータリーは世界的な大組織ですから、ルールや組織など複雑な面もありますが、今日はロータリーの魅力について話したいと思います。第1に、立派な方々と同じテーブルでお話ができる。時には気軽に声をかけて頂ける、そういう一寸したところに喜びがあるものです。

また、異業種の友達が沢山でき、ロータリーという志を同じくする人々と親近感が深まります。そして、一般社会の競争原理の中では得られない良いお付き合いができ、親睦会、2次会にもご一緒し交友の喜びが得られるのです。また、多くの異業種の人々との付き合いは自分の企業にとってプラスになることが徐々にわかってくる、このようなところにも大きい魅力を感じるものです。ロータリーの本当の魅力は、もっと奥深いところにあるのですが時間をかけて体得して頂きたいと思います。人間社会における成功は、事業を成功に導くことと、社会的な評価を得ることにあるでし

ようが、社会の競争原理の中では大きいストレスを受けます。それを解消する方法を趣味や遊びに求めることが多いと思われませんが、ロータリーは、ストレスを解消するのに、多くの友人と共に語り、人の為に尽くすという暖かい人間の善意によって解消することにとめていっているのです。即ち、暖かい人間関係は事業の成功と共に幸せを得る道であるといえるでしょう。「誠の幸福は人助けから」とR Iのテーマにあるように、ロータリーは、親睦から奉仕を生み出す集団であります。

ロータリー標語は、第1. 「Service above self」 超我の奉仕です。この意味は「サービス第1、自己第2」人の為に尽くすことを第1に、自分のことは後に。

第2. 「He profits most who serves best」 「最もよく奉仕するもの、最も多く報いられる」これらは日本の諺「情は人の為ならず」に通じ、人の為に尽すことが実は自分の為にもなるということを経験を通じて知ることができるでしょう。ロータリーにおける会員、どうしの親睦と、人の為に尽

すことは、この世の中で得難いコンビネーションです。皆様、ロータリーライフを楽しまれ、ロータリーの中から価値ある人生を見出して頂きたいと心から願っています。

3. 出合いとは（一期一会）

井伊直弼は桜田門外の変に倒れた薄命（46才）の人であった。彼の書「茶湯一会葉」には「そもそも茶の交会は、一期一会といって、たとえ幾たび同じ主客と交會するも、今日の会に再びかえらざることと思えば実にわれ一世一度の会なり」と記されています。

一期一会とは一生涯においてただ一度の會合であることであり、會ったときが別れのときなのであります。たとえ幾度會う人であっても今日の會合は二度と回って来ない。だから自分自身に責任を持つべきであり、一期一会とは「めぐり合い」の凝視である。と記されています。

人生はすべて出合いである。これは出愛にも通じ、思いやりの心にも通

じます。

坂村真民氏の詩

「子を抱いていると ゆく末のことが案じられる
よい人にめぐりあってくれと おのずから涙が
にじんでくる。」と

4. 山口バスト・ガバナーの話

関西ロータリー研究会の席上で山口善ニバスト・ガバナー(D・2650)が発言され、「私は常に一期一会の心で例会に出席し、そのつみ重ねで43年皆出席することができました。それには自分のライフ・ワークが挫折しないように、困難な仕事をのり越え、健康に留意し、というような自己コントロールに心がけることによって達成することができたのです。このことによって、ロータリーから得られた幸福と喜びがあり、人間的な成長が得られたことを顧みてロータリーに入れていただいたことに深く感謝

しています。これから、さらに50年に向けて精進したいと思っています。」と、山口PGは滋賀県（大津）からわざわざ大阪の研究会に参加されたのです。

「出合いの重なり」はロータリーの真価ともいうべき、例会出席は稀有な教育的特性をもっており、「ロータリーは人をつくる」の場となっている。さらに自分の職業生活の中では得られない、多くの違った職種の優れた指導者と知り合いになれることであり、そこからインスピレーションを受けて、自分自身が成長すると共に、例会で学んだものを自分の所属する業界に持ち帰り、さらに業界の人々にもこれを押し拡めることが望まれています。

5. 出席について

ポール・ハリスが日本を訪れたのは、ただの一回であった。

「華やかに和やかに、燃ゆるロータリー精神

産みの父ポール・ハリス翁一行 新大阪ホテルで国際的交歓、

昭和10年2月11日付の毎日新聞にのっている。

若い記者、斎藤栄一さんがポール・ハリスにインタビューしたときのことです、「ロータリーは出席がやかましいのでは？」の問いに「出席をきびしくいうのではなく、是非出席したくなるような会合にしたいのです。」とニコヤカに答えたのです。

「ロータリー通解」には「ロータリークラブは、電流の流れている電線のようなもので、電気が通ったり、通らなかつたりするようでは役に立ちにくい」と。

斎藤栄一さんは後年、毎日新聞社の社長となり、大阪ロータリークラブのメンバーとして活躍された。

(a) ポールハリスは歓迎会の席上、 例会出席についてふれている。

週1回の例会が大変であると思っている会員もいるようですが、と前置きして「ロータリーの例会は休息の場所である。例会は1週1回、1時

間の休息の時間である。朝8時から12時まで脇目もふらずに仕事をやる。疲れたときそれを癒す為にクラブへ出てくるのだ。それはドイツ人がビアスタンドへ行くように、スペイン人が昼寝をするように、イギリス人がテイクタイムを取るようにリラックスする時間があつてよい。例会は会員が互いに親しくなり友情を深め、それを基礎にして奉仕の心を養い活動するところなのである。」と語られ、さらに、「例会というのはリラックスした親善の場で、明るく、楽しくて、次の集いが待ち遠しいというような例会にしたいものです。その中で築かれた親睦、信頼から人の為に尽そうという奉仕の心が徐々にうまれてくるのです。」と話された。

(b) メイクアップ

ロータリーの会員資格を維持する条件は、会費の納入と定められた出席率の保持なのである。例会への出席は、会員がクラブに融けこみ、会員同士が親睦を深めるための最良の機会である。出席とみなされるには、例会

時間の60%以上出席することが必要である。病気や仕事の都合で例会を欠席する場合、他クラブの例会等に出席して欠席を補填（メイクアップ）しなければならない。メイクアップもその例会に60%出席することが必要である。

○ 滋で定められた出席率とは

イ. 年度の前半期、後半期それぞれの期間メイクアップを含めた出席率が60%以上であること。

ロ. 前、後半期それぞれにホームクラブへの出席率が30%以上であることと定められている。

ハ. メイクアップの期間はホームクラブ欠席した日の前後2週間づつであることから、さしてむつかしいものであるまい。

(c)・メイクアップに思う

ロータリアンがホームクラブ以外のロータリークラブへメイクアップすることは、各ロータリークラブの例会のあり方など、いろんな点で参考になるものだ。私達は訪問するクラブで学ぶと共に、その雰囲気を大切にしたいものである。

しかし果して、それが守られているだろうか、

私は、あるロータリークラブに卓話者として招かれた人の話を聞いたことがある。ある卓話者の話 「私は、食事を終えて演台に立ち話を始めようとした時、会場の後方に座っていた多くの会員が大挙して退席したので、会釈もせず当然のように会場を去る有様を見て、私の卓話が気に入らなかったのかとの思いで空しい気持ちになりました。

30分の話を終えた帰り道、ロータリーとは紳士の集いとかねがね聞いていましたが、クラブの雰囲気、卓話者への心配りというような人間として大切なものを越えるほど時間に余裕の無い人々なのかと感じたのです。」

このことは、私も他の多くの人々も感じていることである。

この状態を徐々に改良していくには新しい会員に期待すること大である。

そのために、

①卓話を聞くことを楽しみ、メモをとる習慣をつける。

②例会欠席が前もって決まっている場合には事前に余裕を持ってメー

クアップすること。

③緊急時を除きホームクラブ、メイクアップを問わず例会時間100%

出席の習慣をつけること。

これらは私がロータリークラブ入会した時に、インフォメーションで教

えられた出席に関する項目である。

(d) 多忙な人のメイクアップに学ぶ

私はホームクラブを欠席した時、歩いて数分の距離にあった元国際ホテルで開催される大阪東ロータリークラブの例会によくメイクアップしたも

のである。もう20数年前になろうか、私が同クラブにメイクアップに行った時の事である、受付の近くにある小さな応接の椅子に、いつもお世話になってる丸江（株）の川村常務が座っておられた。挨拶を交わし、意外な処でお会いした訳をお尋ねしたところ、常務は「市川社長が大阪ロータリークラブを欠席されたので、メイクアップに来ておられるのです。例会後、伊丹空港までご一緒に車の中で山積する問題の打合わせをする事になっていきます、東京へ飛ばれ2日後に帰られます、社長の忙しさは大変なものです。もう例会が始まるようですよ、どうぞ早く入って下さい」と促され例会場に入ったのであるが、私は、こんなに多忙な大会社の社長が空港へ行く前の1時間をメイクアップに当てられていることを知り、ロータリーの例会を大切にされる気持ちに打たれたものである。

私たちは、ロータリークラブへ入会する時、例会出席の大切さを教えられ、出席することを約束して入会したのである。しかし年と共にその気持ち疎かになり勝ちであるが、多忙な人が少しの時間をさいて、自分が自分に課した約束を守ることの大切さを教えられたのである。

阪神淡路大震災の翌日、例会に集った多くのロータリアンが倒壊した例会場の瓦礫を前にお互いの無事を喜び合ったという話は、ロータリアンの例会を大切に思う気持ちのあらわれであろう。

6. 会員の親睦の推進

ロータリーの最高の姿は、よき働きと清らかな楽しみとの当を得た混合である。

ポール・ハリスは1910年「ロータリーは親睦と奉仕の調和の中に宿る。」いわれた。私達の楽しみを常に清らかなものとするよう、おたがいに気を使いたいものである。

私達は※ロータリーの品位というものに健全な尊敬の念をもたなければなるまい。1959—60年度のRI会長ハロルド・トーマスのオークランドRCのスピーチに耳を傾けよう。

「もしも私達がロータリーの中の潜在する力を發揮させようとするなら

ば、何よりも先ずロータリーの理解を広く普及徹底させる必要がある。そのためにはロータリーについての考え方を単純明確にしなければならない。このような理解は会員どうしのよりよき友情の積みあげによって身につくものだ。その手始めとして、どのクラブもどのクラブもみんな友情あふれるクラブにすべきである。ビジターとして訪れた人達が当日のスピーカーとその題目や料理のことなど忘れてしまった後でも、当日さし伸べられた歓迎の暖さと会員が示してくれた友情の暖さを忘れることのできないようなクラブになるよう、自分の役割を果たすのがクラブ奉仕である。」

※ロータリーの品位、格調の高いロータリーの思想の姿は「ポール・ハリスが育ったニューイングランドの極めて高い知性と、この地特有の厳しさの中で戦いから得た素朴な勤勉さを内容とする人柄から出たものである。」

7. 親陸と奉仕

ロータリーでは親睦と友情を深めながら奉仕を行い、奉仕を行ないながら効果的な親睦が増進され、さらに効果的な奉仕を生み出すというようなロータリーならではの良きサイクルが営まれることが期待されているのだ。

しかし、ロータリーの親睦は往々にして、その目的をはきちがえて、それ自体を目的とする傾向がないとはいえない。ロータリーの親睦も良心的なロータリアンの「奉仕の理想」を追求するための一過程としてとらえられるようにしたいものだ。

ポール・ハリスは「ロータリアンは共通の仕事に協力せよ。意見が同じでない場合は常に寛容と理性をもって当れば我々は友愛をもって報いられるであろう。」と、また1910年ポール・ハリスは「ロータリーは親睦と奉仕の調和の中に宿る」と語っている。

奉仕について、ハーバード・ブラウン会長は、テーマである一真心、慈

愛、平和をキーワードに次の3項目を示している。先ず誰でも毎日できる「家庭において…」から始まり、家庭↓地域社会↓世界社会の順を追ってキーワードを説いている。ロータリアンであることは、他へ奉仕することを意味している。それは、今迄社会から受けた恩恵に報いる行為であり、奉仕することが、さらに奉仕の心を高めることにつながるようになる。

これがロータリーの実践哲学なのである。道ばたの石ころを拾うこと、困っている人に手を差し延べること、自分の職業の倫理観を高めることなどを通じ、社会改良への取り組み、国際奉仕の活動に参加する機会が与えられるのもロータリーだ。ロータリーは、また次世代の指導者を育成するロータリー財団奨学制度及び、米山奨学財団など、何れも世界最大級の財団を運営し、立派な人材を輩出していることは特筆すべき奉仕だ。希望と多様性の中で共に学ぶ時、ロータリーの真価が次第に見えてくるだろう。

8. ある会員の感想（入会3年）

入会3年にして私の第一の思い出は、当クラブに於いて歴代の会長以下役員の方々や会員各位が所謂ロータリー精神の根本である奉仕の精神に基礎を置いて、名利を超越して日々奉仕をされていく状況を目の前に見てこいう社会生活もあるのだと感じた事であります。

我々人間の生活は普通は職業とか或いは出身学校其他の何等かの系列を同じうする者が集る機会が多いのが普通ですがロータリーは職業、年令、社会的地位其他の制約のない志を同じくする人々が一つの集団を作つて前述の奉仕の精神を実現する一種の特別な集いである事に対して人生行路の中で私は貴重な体験をしました。

然も私はこの雰囲気の中で当クラブ内に於いて入会以来多数の「心の友」を得たのであります。

心の友の数は少ないかもしれないが、私が社会生活を営む間に於いて金銭では求め得ないものであつて私の生涯を通じてほのぼのとした春の光を与えて頂いた事をこの上もなく感謝しているのです。

9. ロータリアンの特権 I

第1に、ロータリクラブへ入会することで全世界約120万に近い品性高潔事業上の令名ある親友を得ることです。ロータリアンになれば、世界のあらゆるロータリークラブを訪れても心からなる親交を受けることができるのです。

自分の所属するクラブの中にあつては利害関係を離れて心の交いあう親しみを味わうことができ、そこには光こそあれ、暗さは無いのです。

第2に、ロータリアンであるがために得られる信用なのです。ロータリアンの間では勿論、一般社会の人々からも、ロータリアンであるというこゝとで絶大な信頼を得ることができるようなのです。

第3に、ロータリー活動を通じて自らが職業に、社会に、国際的に奉仕する機会が多くあり、自分一人では不可能なこともロータリーを通してな

らでできることが多くあるものです。

第4に、週1回の例会に永年出席することで、多くの会員との親睦が深まり、リラックスした中から人間関係が次第に深まっていき、目に見えない結びつきができるのです。

そして、お互いに相手のお役に立とうという利他の心が生まれ、お互いの人間性が高まっていくことになります。ロータリーの第一の仕事は、「人作り」「自分の人間性を高める」ことにあります。

第5に、ロータリークラブは、ロータリアンが「ほんね」で語り合う場です。「ほんね」とは一思いやりと助け合いに生きようとする善意の魂が孤独を感じ、同志との語り合いの場を持ちたいと願う心情がそれなのです。

それは、丁度私達が少年時代に何のわだかまりもなく多くの友人と話しあった懐かしい頃の再現に似たものです。ポール・ハリスは週1回の例会を「童心に帰る」また或る人は「神になる瞬間」と表現しています。時を

重ねることによってロータリアンはこのような境地になるのです。

10. ロータリアンの特権 II

信頼されるロータリアン

科学者が真理を追求し、芸術家が美を追求することに対し、ロータリアンは善を追求する人々です。「他人の立場に立つてものを考え、他人のお役に立つ行いをという心」をロータリアンが長年にわたり自分のものにするることによって、ロータリアンどうしの信頼は勿論、一般の人々にも評価されることになり、この心を自らの事業に適用することで、事業の永続と繁栄につながるようになるのです。

古い実例ですが一つあげて見ましょう。

大阪ロータリークラブの会員に太田丙子郎君と云う方（昭和40年に89才で亡くなりました）が、お若い頃、当時のO. S. K.（大阪商船）

の代表として英国へ船の建造の注文に行かれた時の話です。英国の大道船会社の応接室へ通されてやがて現われた社長が太田君の襟に付けたロータリーの記章を一目見るなり「君はロータリアンか、私もロータリアンだ。それならかけひきも交渉も要らない、直ぐ承諾しましょう。調印しましょう。」と云って当時の金で100万円、現在にすれば驚くほどの高額な巨船の注文を数分の内に引受けてくれたと云うことです。

このような、ロータリアンどうしの信頼関係は枚挙にいとまがありません。

11. ロータリー6つの活力源について

(1) 一業一会員制であり、考え方の違う会員どうしの触れ合いによってお互いに学びあい、高めあうことでロータリーは深さと幅を広げ、かつ会員の質と量によって広がりを持っています。

(2) 役員は1年交代制であり、会員おのおのが役員の経験をもつこと
によってロータリーを総合的に理解することができ、それぞれの会
員の持ち味によって毎年、独自の活力をロータリーに与えます。

(3) 会員一人一人の自主的な活動でありハロルド・トーマス(196
5-60年RI会長)著の『ロータリー・モザイク』には、「我々
は寄木細工の一片に過ぎない。しかし、その一片一片に重要な意味
があり、役目がある。ロータリーは一握りの人間によって築かれた
ものではない」と語っている通り、私達ロータリアン一人一人に重
要な意味があり、役目があるのです。

(4) 奉仕の理想を基礎として、人との出会い、触れ合いがあり、他人
のために尽すという「人間愛」がロータリーに活力を与えています。

(5) ロータリー情報の提供であり、これで親睦を促進するとともに実

実践活動への刺激剤を提供してくれます。

(6) ロータリーは親睦の中から奉仕の理念を生み出す集団であり、奉仕の理想はロータリアンの行動の基礎をなすものであり、ロータリーの活力源なのです。

このように一業一会員、1年交代、週1回の出会い、ロータリー情報、そして会員一人一人の行動がロータリーのキーポイントなのです。

B ロータリーの基本について

1. ロータリーとは（ロータリーの定義）

「ロータリーは人道的奉仕を行い、あらゆる職業において高度の道徳的基準を守ることを奨励し、かつ世界における親善と平和の確立に寄与することを旨とした実業人及び専門職業人が世界的に結び合った団体である」

2. ロータリーの目的 (Purpose)

「地域にロータリー精神を広く普及し定着させ明るい幸福な社会造りをする、この美しい企画を全世界のロータリアンが手に手をつないで実践することによって相互理解と親善を増し、その結果世界平和を

もたらそうとするものである」

3. 国際ロータリーの目的

- (i) 全世界にわたって、ロータリーを奨励し、助長し、拡大し、そして管理すること。
- (ii) RCの活動を調整し、全般的にこれを指導すること。

4. ロータリーの綱領 (Object Of Rotary)

ロータリーの目的を達成するための最も重要なものが綱領である。ところが、これを知らないロータリアンが案外多い。中には綱領は四ヶ条であると思いきんでいるロータリアンも少なくない。

現在の綱領は1951年アトランティックシティの国際大会で、いままではObjectsであった綱領が単数となりObjectとSがなくなった。

従つて綱領の頭に

「有益なる事業の基礎として奉仕の理想を奨励且つ育成し」というのは前文でなく、これが本文そのものであり、次に示されている四項目は綱領を達成するための四つの方途 (Avenue) であつて、方途にはいろいろ他にもあり得るのでこの四項の冒頭には「特に」と明示されている。綱領は多くの変遷を経て今日のものとなっている。

ロータリーの綱領

ロータリーの綱領は、有益な事業の基礎として奉仕の理想を鼓吹し、これを育成し、特に次の各項を鼓吹育成することにある。

第1 奉仕の機会として知り合いを広めること。

第2 事業および専門職務の道徳的水準をたかめること、あらゆる有用な業務は尊重されるべきであるという認識を深めること、そ

してロータリアン各自が業務を通じて社会に奉仕するために、その業務を品位あらしめること。

第3 ロータリアンすべてが、その個人生活、事業生活および社会生活に常に奉仕の理想を適用すること。

第4 奉仕の理想に結ばれた、事業と専門職務に携わる人の世界的親交によって、国際間の理解と親善と平和を推進すること。

5. ロータリー精神

ロータリー精神とは奉仕の哲学であり、Service above self (超我の奉仕) にもとづいて活動を行なおうとする精神、表現をかえれば「他人に対する思いやりの心、助け合いの心」実践といえるであろう。

1974～75年度ウイリアムR・ロビンズRI会長年度のRIテーマは、「ロータリー精神を振るい起こせ」(Renew the Spirit of Rotary) このテーマは「ロータリー原始の純粋な精神も現在忘れかけ、稀薄になりかけて

いる、そういう隠された真実に光をあて、掘り起こして活を入れようという意味なのである。」

「ロータリーが他と違った独特の源泉とは何か？ それはロータリアンの個人一人一人が他人の為に尽すという奉仕の理想に献身することであり、これこそがロータリー精神というものである」

6. 奉仕の理想 (Ideal of Service)

ロータリー綱領の中に三つも用いられている大切な言葉であるが、奉仕の理想とは抽象的でその意味がつかみにくいと言われる。

(奉仕のアイディア、奉仕の観念、奉仕の理想像……など意見が出ている)

RIの公式名簿 (Official Directory) の最終ページに示されているように、「奉仕の理想は、Thoughtfulness of and Helpfulness to others 『他への思いやりの心、他への助け合いの心』である。」

これを行うための指針として、イエスキリストの山上の垂訓「汝 他人より与えられんと欲するすべてを他人に与えよ」ということになる。

7. 決議23—34

この決議は国際ロータリーの決議の中の最も重要なものである。

1908年アーサー・シエルドンがロータリーにおいて初めて Service の理念を導入し、奉仕について「serve (個人) か We serve (団体) かに ついての論争が激しく対立し、分裂の危機も起きかねない状況になったのであるが、1923年、テネシー州ナッシュビル RC の努力によって (決議23—34) が採決され、これまでの危機も解消して今日のロータリーの発展をみる事ができたのである。

この決議は6項目にわたる長文であることから、重要なポイントをここに揚げ、ロータリアンの座右の銘とされることを望むものである。

〔第一ポイント〕

ロータリーは、基本的には一つの人生哲学である。それは利己的な欲求と義務及びこれに伴う他人のために奉仕したいという感情との間に常におこる争いを和らげようとする人生哲学である。この奉仕の哲学は超我の奉仕の哲学であり、最もよく奉仕するものは最も多く報いられるとする実践倫理の原理に基いている。

〔第二ポイント〕

ロータリーは進歩の過程において、その必要を満たし、その変遷につれて変化する必要性に適応することを目的として考案された方針とプログラムを実践するものであるからロータリーは単なる心の持ち方ではなくて実際のな行動に移さなければならぬ。そのためロータリーの集団行動は下記の条件下において推奨されるものである。

(1) RCは毎年異った、しかも会計年度内に完了出来るような社会

奉仕活動が望ましい。

(2) 活動は地域の事実上の needs にもとずいてクラブ全会員に呼びかけて協力を求めるべき性格のものだから、これは会員の個人的活動のプログラムと見做すことができる。

(3) この活動は絶対的自主権をもつて行うべきものである。ロータリーの綱領を不明瞭にしたり、ロータリーの目的を逸脱するものであってはならない。

(4) RIは特定のクラブに対し、特定の活動を命じたり、禁止したりする権限はない。

(5) クラブが団体で行動するような事業よりも、広くロータリアンの個々の力を動員するもののほうがロータリー精神にかなっているといえる。

RCの社会奉仕は、そのメンバーに奉仕の訓練を施すためのいわば研究室の実験と見るべきである。

以上、その概要を示したが、事ある時は、手続要覧の「決議23—34」を見ていただきたい。

参照「ロータリー章典記載の決議23—34」

8. 四つのテスト

シカゴの若い実業家ハーバート・テーラーが四つのテストを作ったのは1933年であった。

テーラーは、苦境にあつた彼の管理社会の基本政策として、このテストを実施して、驚異的成果を収めた。このテストはロータリーに採り入れられ、全世界にわたってロータリーのプログラムを発展させる上に計り知れない重要な役割を果しているのである。

四つのテスト

言行はこれに照らしてから

- (1) 真実かどうか
- (2) みんなに公平か
- (3) 好意と友情を深めるか
- (4) みんなのためになるかどうか

四つのテストは、学校でもいろいろ異なった方法によって役に立てられている。

そして、ほとんどの近代語に翻訳され、用いられているのである。アメリカの立志伝中の一人、ジョージ・シンは苦学の末、30におよぶ会社のオーナーをつとめたが、彼は不屈の精神力で成功をおさめたのであったが、彼の著書「やる気を起こせ」の中に、世界有数の奉仕を行うRIの「四つのテスト」はわれわれの求める正しい問題解決法であると評価している。

ハーバート・テラーは国際ロータリーの第50代会長をつとめ、活躍された。

彼の著書「我が自叙伝」は後進への貴重な著書となっている。

9. ロータリーモザイク（ハロルド・トーマス著）より

RI事務局は「世界中のロータリークラブが経験とアイディアの交換を求める交換所なのだ。

しかし、アイディアはすべて入念に仕分けされ、他のすべてのアイディアと比較検討されるといふ点で、単なる交換所以上のものである。

その結果、より良いアイディアが生まれる。

それは正に独特の交換所であって、そこから各自に提供するアイディアの統計にまさる何物かが生み出されるのである。」

「ロータリーにおいて、われわれが収護として考えられるのは、世界平和と安定、みんなが友達として、また隣人として安住できるような友好的な、隣りづき合いのできるような世界です。」

播かれるべき種はフェロシツプと友情、理解、そして何物にも増して信頼であります。土壌、即ち個々のロータリアンの心との考え方でありま
す。そして重要度の順からいえば、その第一にくるのは土壌の準備であり

ます。

10. 職業についての概念

職業奉仕とは自分の職業を誠実に努力することが奉仕であると自覚することがその原点であり、奉仕は副業でなく本業として取組むべきことを意味しているのである。

言いかえると、ロータリーの職業とは有益なる事業のことであり、すべての人々につくすために存在するものであるとする「天職」と合致するものだから、ロータリアンは職業を奉仕の原点と考え、奉仕の理念の導入と高い倫理の推進を自分の職業にも、同業の職業にも定着するように努力したいものである。

それがロータリーの云う職業奉仕 (Vocational Service) なのである。

ロータリーの歴史上にアーサー・シエルドンのモットーが無かったなら

ば、職業奉仕の概念はこれほど根強くのこらなかつたかも知れないし、Profit と Above Self が両輪となつてこそ現在のロータリーがあると云えるでしょう。

なぜなら Above Self だけならば一般の奉仕団体と何等変らぬものになつてしまつたからであります。

• Service Above Self (超我の奉仕)

• He profits most who serves best (最もよく奉仕するものは、最も多く報いられる)

• 凡れに The Four-Way Test (四つのテスト) を加え
ロータリーの三種の神器ともいわれています。

11. Profits の考え方

He profits most who serves best の中の profit は世俗的に過ぎるとか、

物質的に主点がおかれすぎるとか、欧米のロータリアンから異論が出てくる。

1916年ガイ・ガンデイカーは「A Talking Knowledge of Rotary」（ロータリー通解）の中で次のように述べている。

「Profitとは商品の生産価格と販売価格から生ずる利潤というような近視的なものをいうのではなく、すべてのロータリアンがもつ立派な人物となり、自己に対し、同僚に対し、又一般社会に対して、もっと優れた奉仕をする機会を与えられることをいうのである。」と。

今までもこのモットーについて、Profitが問題にされていたが、当地区の塚本バスト・ガバナーは次のように述べている。

「このモットーが世俗に過ぎるとか、物質的に主点がおかれすぎるといわれているが、シェルドンの考えは精神的報酬に主眼をおいているものと推理する。」と。又日本古来の「積善の家に余慶あり」に通ずるものであり、高い次元にたって解釈し、職業上の実践折衷として評価したいものである。

1989年シンガポールの規定審議会の当地区クラブ代表議員として私

が出席した際に、日本の願いもむなしく第一のモットーが Above self 第二のモットーが Profits と決定された。

12. スピーチの事例

元国際ロータリー会長ラジエンドラ・サブ氏はスピーチの中で次のように話しています。

私は30年間ロータリークラブのメンバーです。皆さんの中にはもっと長い間メンバーである方もおられると思います。ではいつ私がロータリアンになったでしょうか。人々の人生には一つの転機があるものです。

ある時、一人のアメリカのロータリアンがネパールのカトマンズにやって来ました。彼は道端で片足のない少年が物乞いをしているのを見ました。このアメリカのロータリアンはこの光景をしばらくは心の中から消していました。しかしその光景はいつも整ってきました。アメリカに帰国した時、

彼はカトマンズのロータリアンに連絡し、その少年を見つけ出しました。そしてカトマンズのロータリークラブを通じて、このアメリカ人は義足を送り、教育も提供しました。

現在では、この少年、ラメツシュ・プラサド。フマーキは尊厳を持って人生を生きていく青年に成長しつつあります。このアメリカのロータリアンの人生の中で彼がロータリークラブのメンバーから、本当のロータリアンになった一つの転機があったわけです。

本日参加されている皆さんも多分、同じようなお話ができるのではないでしょうか。なぜならば、皆さんのリーダーシップのもとで日本のロータリークラブはいずこにおいても人類の為にWCSプロジェクト並びにロータリー財団の活動に深くかかわっておられるからです。

ロータリアンであるということは、一つの人生の生き方ともいえます。そしてその動機は各人の内部から直接起きてくるものです。そのような動機はRIの会長になるとか、あるいは理事、またはガバナーになるというような動機よりもはるかに偉大なものだと思います。ロータリーは我々に、

内にある善意という信条を行動に移しかえる機会を与えてくれます。

あなたも私も、この世を変えようと思つてロータリークラブへ入ったのではありません。多くの友達との交友を求めて入会したのです。ロータリーの深い影響はゆつくりとやってきました。普通の人であることからロータリアンへ変身が始まりました。以前の酔生無死の生涯から意義ある運動を授助する方法を見つけ出した人の生涯へと移つていったのです。

超我の奉仕について学び、信じ、善意の行動が普段のものとなってきました。ロータリアンは生まれるものでなく、このようにしてつくられるものです。ロータリアンに変身していくゆつたりした過程そのものに大きな価値があるのです。

1969〜70年RI会長コンウェイ氏が来日して岐阜で講演しました。その最後にオスカー・ハーマンスタイン氏の詩を朗読し、文中の「愛」を「ロータリー」に置きかえて読んでみよと呼びかけたのです。

○ベルは君が鳴らすまではベルではない。

○ 歌は君がそれを唄うまでは歌ではない。

○ 君の心の中にある愛は、そこにそのままおいておくために授けられたものではない。

○ 愛は君がその凡てを捧げるまで愛ではないのだ。

● 君の心の中にあるロータリーはそこにそのままおくために授けられたものでない。

● ロータリーは君がその凡てを捧げるまでロータリーでないのだ。

「Why I will Rotarian」…「私がロータリアンである理由」という立派な装帳の本がR Iより発刊されました。この本の内容は、過去から現在におよぶR I会長、R I理事、ロータリ財団管理委員の諸氏が「私がロータリアンである理由」について書いておられます。私は、私の懇意にしているかたの文を数編読んだのですが、藁にそのすべてを書くことはできません、そこで先般、元R I会長ロバート・パース氏が理事の時代に書かれた文がロータリーの友にのせられ、深い感銘をうけたので掲載いたします。

「最高に意義ある人生は、広い心、寛仁な魂、いきいきした目、気前よく差し伸べられる両の手によつてのみ得られる、という信条を確呼たらしめるためには、人は、同じ思ひの友と共にあつて、良きユーモア、落ちついた、自然の流れのような平凡な日常における人間的温かさの空気を共に呼吸することが必要である。このことを私はロータリーに兄いだす。これが私のロータリアンたる理由である」この短い文章から、善への意志が、志を同じくする友と共にあることで育つていくというフェローシップの重要性を教えているように思うのです。

「ロータリーとは何か、

ロータリークラブの役割は何か」

RI第2660地区バストガバナ―

戸田 孝（八尾RC）

今日の話は、私がロータリーがわからずに退会を決心したところから始めたいと思います。

昭和37年36歳で八尾RCに入会し、37歳、38歳副幹事、39歳、40歳で幹事を経験してRCの運営、手続についてはよくわかったが「ロータリーとは何か」がよくわからなかった。その上仕事も多忙とあって、退会を決心したのです。そんな頃、平沢ガバナ―の公式訪問が2日間行われ、1日目のクラブ協議会も済み、ガバナ―と共に夕食会を催した場で、ある会員が「世の中を生きる上で大切なことは何でしょうか」と質問したところ、ガバナ―は孔子の言葉「其れ恕か」「己の欲せざるを他に施す勿れ」

すなわち「自分が人からしてほしくない事は人にしてはいけない」の心掛けだと説明された。

平沢ガバナーは、「RCの例会で恕の心と、お互いに拝み合う心を多くの人々との交流の中で身に付けることが大切であり、拝み合う心とは感謝、尊敬、謙虚などを意味するのです」。私は、自分の心掛け次第でこのような素晴らしいものを身に付けることが出来るかも知れないと思い、RCに残ることにしたのです。

クラブライフを続ける中で「恕の字」は母親が赤ちゃんを抱っこしながら心から慈しんでいる有様であり、「恕は慈悲」を表していることが判ってきました。更に世界の多くの人々から信奉されているイエス・キリストの「Golden Rule」黄金律があり、これは「汝多人より与えられんと欲するすべてを他に与えよ」「何事でも、人から自分にしてもらいたいと望む事は、人にもそのようにしてあげなさい」ということで、この黄金律は愛を表しております。

ロータリーの「奉仕の理想」は孔子、キリストの最も大切な教えである

慈悲、愛と同じ意味をもっています。奉仕の理想は「他人の事を思いやり、他人のお役に立つ行いをしようとする心」即ち「Thoughtfulness of and helpfulness to others」他人に対する思いやりの心、助け合いの心」なのです。

意でロータリーの本質はと問われれば「親睦の中から奉仕の理想を生み出す集団である」といえるでしょう。「大師遭い難し」（この世の中では本当の師にはなかなか遭えないものだよ）というこの時代にあってロータリーで多くの師に出遭えたことは誠に幸せでありました。

ロータリーは人間の満足を充たす道であります。ロータリーは世界的に会員数の減少という問題を抱えています。新会員を受け入れる為にも魅力あるロータリーを、又、退会を止める為にもロータリーの魅力を知って貰う必要があります。ロータリーが「人生をより良く生きる道である」ということに加え、ロータリーを基本的に判りやすく表現することが大切ではないかと思えます。このような意味もあって、国際ロータリーは「ロー

タリーの「真の姿」とは何かを検討するために「True Image of Rotary 委員会」を作り、討論を重ね、ロータリーの真の姿は F. S. S. で表わされると発表しています。

1. ロータリーの真の姿とは

E—Enjoy

職業の異なる会員が信頼感を以て心から楽しみ、親睦を深め友情をあたため、喜びを通じて成長していく。

S—Study

ロータリーから人生哲学、職業倫理を学び、多くの会員の人生観から学び自己研鑽に励んで人間性を高める。

S—Service

「思いやりの心で人のお役に立つ行動を」というロータリーの奉仕をごく自然に自分の生活の中に生かすことで、世の為、人の為に尽くす。

これが「ロータリーの真の姿」なのです。折りにふれ、人々に伝えていくことが大切であります。

私がロータリーの真の姿を知る以前に読んだアブラハム・H・マズロー博士の「人間の欲求5段階説」を思い出します。それは「人間の真の満足は欲求を満たす事無くしては得られない」という言葉です。A. マズローは人間の欲求は次の5段階に分けられるとし、低次の欲求から、

第1段階 生理的欲求…食べたい、飲みたい、眠りたいという生存のため
の欲求。

第2段階 安全の欲求…生活環境のあらゆる危険を防衛したいという、
生活の安全を願う欲求。

第3段階 親和の欲求…集団の中で円満な関係を築き、親睦を高めた
いの欲求。

第4段階 尊敬の欲求…集団の中で人のお役にたち、尊敬されるような

自己の完成を目指す自己完成の欲求。

第5段階 自己実現の欲求：理想、目的を達成し、例えば自己を超え他

人の為に尽くすというような人間を本質的
価値にまで高める自己実現の欲求。

A. マズローの説とロータリーの真の姿を見ますと、A. マズローの高度の欲求といわれる第3段階 親和の欲求、第4段階 尊敬の欲求、第5段階 自己実現の欲求とロータリーの真の姿とは相通ずると考えられます。即ちロータリーは人間の満足を充たす道である、といえるのではないかと、ロータリークラブの中にあつて、親睦と友情を深めながら奉仕を行い、奉仕を行いながら効果的な親睦が増進され、更に効果的な奉仕を生みだし、親睦と奉仕から学んで自己を高めるといふ Enjoy、Study、Service のサイクルが生み出されます。ロータリーは人間の満足を充たす道である、といえるのではないかと。

論語の中で、孔子は自分の性格は楽観的、肯定的であると自ら語り、「楽

しみ以て憂いを忘れ、老いのまさに至らんとするを知らず」と述べております。世の中には憂いのタネも楽しみも両方あるのだからこれはしようがない。憂いのタネをなくそうとしても、それはとうてい無理だから、むしろ楽しみの中のタネを大いに拾い集めて憂いを忘れ、楽しみの中で年をとるのも判らぬほどだ。と教えているが、ロータリーもこのように、人生を肯定し、人の善意を信じ、汚れた世の中であっても理想を捨てずに前向きに積極的に生きようという、そういう理想主義で貫かれていると思うのです。

ポールハリスの自伝「My Road to ROTARY」（わがロータリーへの道）の序文に次の事が述べられています。「ロータリーとは何だ？この間には何千という答が何千人という人によって用意された。しかしこれに答えるのは依然として難しい。けれどもロータリーが我々に何をしてくれたか、ということを考えることは割合に簡単だ。」と語っています。

「恕の心」を与えてくれるのもロータリーであり、より良い人生のあり

方を教えてくれるのもロータリーであり、多くの会員と心温まる交友関係を築くのもロータリーです。

元R I会長ロバート・バース氏が理事の時代に書かれた文章の中から「最高に意義ある人生は、広い心、寛仁な魂、いきいきした目、気前よく差し伸べられる両の手によつてのみ得られる、という信条を確固たらしめるためには、人は同じ思いの友と共にあつて、良きユーモア、落ちついた、自然の流れのような平凡な日常における人間的温かさの空気を共に呼吸することが必要である。このことを私はロータリーに見いだす。これが私のロータリアンたる理由である。」と述べています。この短い文章から、善への意志が、志を同じくする友と共にあることで育っていくというフェローシップの重要性を教えているように思ふのです。

もう一つの面から、ロータリーには「人を作る」という特性を持っているのです。

四つのテストを創った、第五十代R I会長バーハト・テラ氏の「我が

自叙伝」にも「ロータリーのしなければならぬ大きな仕事に人格者を育てること、つまり人作りがあるのではないか。また、そのことに関してロータリーには大変な責任があるのではないかと、私は思っております。政界や実業界において、また地域社会や家庭においてつまり、生活の様々な領域において有能な役に立つ人物を育成すること、そのことこそロータリークラブのなすべき仕事ではありませんまいか。良い市民、良い指導者を育て上げることは是非必要なことであります。」と述べています。

つまり、ロータリーは「ロータリアンの職業倫理を高め、ロータリアン一人一人の人間性を高めること」を目指しているのです。ロータリークラブの役割はここにあるのです。「ロータリアンは皆、各分野の指導者であり、資質をもっている人々です。こういう人は、ロータリアンになることによって本当に変わる。ロータリーは多くの点で人を変える。全部良い方に変えるのです」。ロータリーは難しいものではなく、人間が誰でも持っている利己心と反対の利他心、即ち他人のお役に立つという極く自然な喜び、こ

れに火をつけ、この心を増幅させようとすることで人を変え、人を作るこ
とが出来た筈です。これにより職業倫理を高め、ロータリアンの人間性を
高めるのです。

2. ロータリアンの歴史と理念

ロータリアンは先人の築いたロータリアンの概要を知ることが大切です。
義でロータリアン一人一人に行動の指針を与え、ロータリアンの理想像を示
すものにどんなものがあるか考えてみました。

- (1) ロータリアンの綱領……ロータリアンの目的を達成するための最も重
要なものです。ロータリアン一人一人がロ
ータリアンの綱領を推進することが大切な
のです。

(2) 決議23-34……ロータリーの歴史において最も重要な決議であります。ロータリーの哲学、方針、プログラム、の性格を決定したものです。

(3) 職業奉仕……ロータリーが他の奉仕団体と全く異なる最も大きい特徴なのです。これは、企業経営を
発展させる基本を示しています。

(4) 2つの標語 (motto)

(5) 4つのテスト……ロータリアンにとって貴重な行動の指針となるものです。

(6) 奉仕の理想

(7) 道徳律……20世紀で最も優れた倫理訓といわれるものです。
(1980年規定審議会で手続要覧に掲載中止)

ロータリーは決して難しいものではありません。日々生活を送り、

事業の永続と繁栄を可能にするための考え方、行動の道筋を学ぶ場でもあります。

3. ロータリー創立と変遷

1896年ポールハリスは弁護士としてシカゴに出て事務所を開きますが、顔みしりの人は誰もいませんでした。ポールハリスは、休日は教会へ足を運び、ミシガン湖畔を歩き、街の公園を散歩しても孤独な思いで過ごすほかなかった。彼は自分の育ったニューイングランドの谷間の緑の草原や、懐かしい親切な友人達の声を思い出しながらひとつの考えが芽生え始めました。1900年の夏の頃、同業の友人から夕食に招待されました。食後、夕暮れの街を散歩しましたが、友人は各商店主をよく知っており、会う度に笑いながら挨拶をし、その都度ポールを紹介するのでした。それを見たポールは、自分の育ったウォーリングフォードの風習を思い出したのです。

この時、彼の脳裡には或ことが浮かびました。「大きなシカゴの街でひとつの職業から一人づつ集めるような会員組織を作ったらどうだろうか。政治や宗教を制約せず、寛容をもって各人の意見を尊重するような会を造るのだ。恐らく助け合うような心温まる集まりになるに違いない」と思ったのです。しかし、それから何年かが過ぎていった。

a ロータリー創立

1905年2月23日ポールハリスはデアボン通りに面したユニティビル711号室で、シカゴで最も親しい3人の友人、石炭商のシルベスター・シール、鉱山技師のガスターバス・ローア、洋服屋のハイラム・ショーレーと集まってクラブ創立の相談をします。「シカゴの街の厳しい経済情勢の中で、お互いに心が淋しい。お互い肩を寄せ合い、しっかり助け合うようなクラブを創ってはいかがじゃないか」、4人は相談した結果「みんなが仲良くなるためには、同業者がいると、どうしても心を開くことが出来な

い。同業者を排除して一つの職種から一人だけ会員を選ぼう」という原則を立てました。1業1会員制だから大抵の職種は揃うはずだ。必要なものを互いに安く提供し合おうじゃないか、と相互扶助を考え互恵主義を原則に加たのです。それと、出席しなければ意味がないのだから4回連続欠席欠席すれば資格を失うことを決めたのです。

職業の異なる会員達は、お互いに相手のために役に立つことに喜びを覚えると共に、例会でアイデアを交換することで職業人として成長し、小企業から飛躍への希望がふくらんでくる。その上、異業種の人々が安心して語り合い楽しみ、親睦が深まり、物心両面にわたる喜びが会員の心に拡がったのです。会員達は厳しいシカゴの社会の中で今迄味わったことのない素晴らしい経験をしたのです。例会に集まった会員達にとって、ロータリークラブは都会生活の砂漠の中に出現したオアシスとなったのです。「幸福の日は再び回って来た」との思いであった。例会の入口で、気がねや遠慮を一掃し、笑いと友情あふれる雰囲気から会員達は再び少年に戻ったのです。

初代会長にシルベスター・シールが選ばれました。1906年、シカゴ

RCの2代目会長アルバート・ホワイトの時に、会員が弁理士ドナルド・カーターの所へ趣き、RCの相互扶助の原則などを話し「みんな楽しくやっているから入らないか」と勧誘に行きました。

カーターは話を聞いて「確かに君達は楽しいだろう。君達は豊かになっただろう。けれどRCに入れない人はどうなるのか。職業を持たない人はどうなるんだ。この地域社会に生を受けて、地域社会で生活していながら恩になった地域社会に何ら足跡も残さない。これは、まさにエゴイズムの団体じゃないか」といって、きっぱりと入会を断わったのです。

この報告を聞いて、ポール・ハリスは反省し、「カーターの言うとおりだ。クラブのいき方を変えよう」ということで、それから世の為、人の為のことも考えるというクラブに変わっていきます。ポール・ハリスは直ちにシカゴクラブの定款を改訂し、1906年中に綱領の中に次の項を加えます。「第3条シカゴ市の利益を増進し、その市民の中に市に対する誇りと忠誠を普及すること」。

創立2年にして、ロータリーは早くも漠然としてではあるが、社会目的

を自覚することになったのです。参考として、1906年1月の綱領は

第1条 会員の業務上の利益を振興すること。

第2条 性質として社交クラブに伴う親睦、その他望ましい諸点を振興すること。

となっていた。第3条を知って、カーターは喜んで入会し、初期のロータリーの伝統形成に大きな役割を果たしたのです。ここで「社会及び人の為に」という利他の心が僅かながら導入されることとなったのです。

1907年ポール・ハリスが会長をつとめた時、ロータリーが地域社会への貢献を明確にしたことで取り組んだ最初の仕事としてシカゴ市に公衆便所を作る計画をたてた。強硬な反対にあいながら市民団体の賛同を得て、2年をかけて2カ所の公衆便所を完成し、市民に喜ばれた。

これにならって世界のRCは、地域社会に役立つ事業を数えきれぬほど多くの実績を残している。

1908年ポール・ハリスは続いて会長を務めます。彼はアメリカの主要都市にロータリークラブを拡大したいとの思いがあったからです。

シカゴRCは「会員の親睦と、職業上の互惠主義(相互扶助)」から始まり、ドナルド・カーターの社会的活動の提唱へと変化の道を進むが、この年度、クラブ内では前者を信ずる親睦派と後者を信ずる奉仕派に分れて対立することになり、一時100人の会員の半数が欠席するという異常事態を引き起こしたのです。この経験からポール・ハリスは、1910年「ロータリーは親睦と奉仕の調和の中に宿る」と語っています。

1908年、アーサー・シエルドンとチェスレー・ペリーが天の佑けの如く、シカゴRCに入会してきました。チェスレー・ペリーはシカゴRCの定款、細則改訂の委員長であり、1910年8月には全米に16のRCが創立され、RCの連合組織を作り、ポール・ハリスが会長、チェスが幹事をつとめます。その後、国際ロータリーへと発展し、今日のロータリーの組織の基を築いたのです。チェスレー・ペリーはまた事務総長を3年間務め、ロータリーの組織づくりに尽くしました。

1908年ロータリー草創期にポール・ハリス、チェスレー・ペリーと

偉大な理論家アーサー・シエルドンが揃って、ロータリー発展の基礎を作り、他に例を見ないクラブが出来上がったのです。

「ロータリー定礎の3人」といわれている理論家アーサー・シエルドンはロータリーへはじめてServiceの概念を導入したことで、クラブ内でも物質的相互扶助から、精神的要素が導入されて職業倫理の概念が認識され始めたのです。

アーサー・シエルドンはミシガン大学で販売学を専攻した知識から次のように論説しました。「商取引は売手、買手双方の満足で成立するものです。だから長期に安定した取引を続け、利潤を上げていくには両者の信用確立という精神的なものが大切となってきます。それは相手の身になってものを考える奉仕の心こそが大切なのです。」と論じ、他に例のないRotaryの特色が形作られていきます。シエルドンは当時、商業道徳が地に墜ちたシカゴにも、例外として正しい考えのビジネス商社が成功している原因を研究した結果「恒久的成功への確実な道はただ一つしかなく、それはサービ

スの道である。」と結論を導いたのです。一部の人々がおぼろげに気付いていたことをシエルドンは明確に示したのであります。

2つの標語

1911年8月ポータランドでの第2回ロータリー全米連合大会でシエルドンは、自らの説を人に託して代読してもらい「The Protists Most Who Services Best」（最もよく奉仕する者、最も多く報いられる）を発表し、ミネアポリスロータリークラブ会長であるコリンズは「我々のクラブには今日まで守り続けた原則があります。それはサービスである、利己ではない、即ち Service Not Self である」と発表し、ともに参加者全員に大きい感動を与えたのです。Not Self は自己を否定する宗教的な意味も考えられる（という）ので、シカゴRCにおいてシエルドンも加わって検討し「Service Above Self」（超我の奉仕）に変更され、1950年デトロイト国際大会で He Profits … と … Above Self は国際ロータリーの2つの標

語となりました。

シエルドンは「実業の科学はサービスの科学である。いかなる会社、団体の成功もサービスに徹した人々の成功の積み重ねによるものです。

人生の成功はラッキーによるものでなく、自然の法則に支配され、精神的、道徳的、物質的な法を調和させ努力すれば最高の成功がもたらされるでしょう」と論説しています。このように各自の職業を成功に導くには、サービス、即ち他人の身になって考えるという実業倫理思想無くしては達成することはできない、という職業奉仕の考え方が強まり、1915年サンフランシスコ国際大会で道徳律 (Code of Ethics) 十一条が採択されました。この道徳律は20世紀最高の倫理訓であると評価されています。内容は、個人の完成に基礎をおいているが、ロータリアンが正しいことをするのには単に自我を温存させるためでなく、人類愛を表現し、倫理を高めることの価値と有用性をあますところなく示しているのです。道徳律が採択された1915年はライオンズ国際協会が誕生する2年前にあたり、既にロータリーが道徳を重視することを明確に表明している。1915年当時

のロータリーは日の出の勢いであったといわれます。道德律は1980年に削除されているが、その精神はロータリアンが守り続けたものであります。(参考文献・道德律 P.113)

1905年4名で創立されたロータリーは1910年に1、500人、1915年には20、000人を超えた。この会員増加の理由の一つに「ロータリーの実業倫理思想は企業の永続性と繁栄をもたらすものである」ということを事例で知った人々が挙ってロータリーに集まったのではないかとされている。1916年第6代会長アーチ・クランクは「人類のために偉大な教育への貢献を提唱」し、ロータリー基金が設立され、1928年「ロータリー財団」としてミネアポリス国際大会で採択されています。

c 決議23—34

1918年オハイオ州エリリアRCにエドガー・アレンが入会し、彼は身体障害児の保護、教育など人道的慈善にロータリーは一丸となって手を

差しのべるべきであると提唱し、1922年ロスアンゼルス国際大会において決議案が採択された。これを後押しする行動派の活発な動きがあり、これに対し、ロータリーの基本理念を守ろうとする理論派の強硬な反論と激突して、全米ロータリーは両者の大論争に巻き込まれたのです。この時期、ロータリーは分裂の最大危機に直面しましたが、この激突を氷解させる決議案をテネシー州ナッシュビルRCのウイル・R・メニア・ジュニアらが緊急に作成し、1923年セントルイス国際大会に34号として提唱し、決議23―34が採択されて両派論争に終止符をうつことになりました。この決議23―34は行動派、理論派両者の主張を巧みに調和を保ちながら作成されたものでロータリーの歴史に残る名宣言といわれています。この決議はロータリーの基本的特色を表し、創立18年にしてロータリーの精神的骨格（バックボーン）が完成したもので「ロータリーの原点」とも言われるものであります。ロータリーはI Serveであります。世界に、地域社会に対応するには個人の自発的な奉仕の心を集積させることで目的を果たすことが本筋です。しかし、We Serveとみられるのは、ロータリー

クラブの奉仕活動は、会員一人一人の力を動員するものであるが、あたたかも集団で奉仕しているように見えることから斯くみられるのであろう。ロータリアンはその本質を認識しなくてはなるまい。決議23―34はロータリアンが常に反復して読むべきロータリーの基本となる決議であるが、長文の上、翻訳文であることから読みづらく途中で止めてしまう傾向があるので、せめて、その概要を知ることが必要であると考え、次に整理しました。

d 決議23・24の概要

第1. ロータリーとは何か。

ロータリーは一つの人生哲学である。それは利己的な欲求と、他人の為に奉仕したいという感情との間に存在する矛盾を和げようとする人生哲学である。

第2. ロータリークラブの役割は何か。

ロータリーの奉仕の哲学を受け入れ、奉仕の理論が、職業及び人生の成功と幸福の基礎であることを団体で学び、個人としてその理論を日常生活に実践し、又、個人、団体とも地域社会に実例を示していくことである。

第3. 国際ロータリーの目的は何か。

奉仕の理想を育成普及し、ロータリークラブの設立、激励、援助、情報交換所として各R Cに強制でなく有益な助言を与えることである。

第4. 奉仕するものは行動しなければならない。

ロータリーは単なる心構えのことをいうのではなく、ロータリーの哲学も単に主観的なものであつてはならず、それを客観的な行動に表わさなければならぬ。

第5. 各ロータリー・クラブは、地域に適した奉仕を選ぶことに絶対的な自主権をもっている。

むろんロータリー綱領を無視したり、ロータリーの目的を危うくしてはならないが、国際ロータリーはクラブに有益な示唆を与えることはあつても、何かを命じたり、禁じたりすることは絶対にしてはならない。

第6. ロータリー・クラブが団体活動をする場合の指針をa～fまで6項目について詳しく記述したあと、7項目gにクラブがひと固まりとなつて行動するよりも、広く全てのロータリアン個々の力を

動員するものの方がロータリー精神によりかかっている。ロータリークラブの社会奉仕はロータリアンに奉仕の訓練を施すために考えられた、いわば研究室の実験と見るべきである。

社会奉仕に関する1923年の声明（決議23—34）を読みたい。

さらに進めて国際理解と世界平和を推進することを目的にしている。ロータリアン個人が「奉仕の理想」を身につけて事業生活、社会生活において人の為に尽くすというアイ・サーブの思想はロータリー独自のものです。

（参考文献・決議23—34 P.103）

e ロータリーの綱領の変遷

ロータリー創立から一年後の1906年1月、初めての綱領が制定される。

第一条 会員の業務上の利益を振興すること。

第二条 性質として社交クラブに伴う親睦、その他望ましい諸点を振興すること。

ロータリー発足当初は「会員の職業上の相互扶助」と「親睦」が基本理念であったが、ポール・ハリスは弁護士ドナルド・カーターの地域社会に貢献すべきだとの意見を取り入れ、次の第三条を付け加えた。

第三条 シカゴ市の利益を増進し、その市民の中に市に対する誇りと忠誠を普及すること。

ここでロータリーは初めて漠然とであるが社会的目的を自覚することに
なり、シエルドンの奉仕の概念の導入で高められ、精神的要素が導入され

て職業倫理の認識となった。綱領は10回以上改訂され、1951年アトランテック・シティ大会で Objects of Rotary から Object of Rotary となり今日に至っている。

4. 職業奉仕

ロータリーが他の奉仕団体と異なる最も大きな特長は職業奉仕という概念を持つている事である。それこそ、我々ロータリアンが大きい誇りとし、この職業に倫理観を持つがゆえ、我々の職業が世間に信頼されたのです。

我々は職業に誇りを持たねばなりません。言い換えれば、社会的使命の重要性を認識する事が必要です。ロータリーのいう職業奉仕とは Vocational Service であり、Vocation は神によって授けられた職業、即ち天職という使命観をもつものです。

職業奉仕の源流を探れば、アーサー・シエルドンが事業経営の本質について語っているところまで遡る事になります。シエルドンは「商売は利益

を上げなければ成立しない。経営者が利益を獲得するのに真剣になるのは当然のことである。しかし一体、利益はどうすれば得られるのか、社会のニーズを調査し、アイディアを大切にする事等の経営努力に加え、特に大切な事は、相手の身になって考える、所謂サービス（奉仕）の心を取引に適用し、取引を続ける事で客との信頼関係がだんだん深くなっていく。このような商取引を永年続ける事で世代を越えて信用という精神的なものが築かれ、これによって事業の永続と繁栄が築かれるのである。

即ち利益は奉仕によってもたらされるのである」。

優れた奉仕が優れた報酬に値する事は、火と熱の関係と全く同じである。小さい火には小さい熱が、大きい火には大きい熱が与えられるように、奉仕ができれば報いも大きい。

即ち「最も良く奉仕する者は最も多く報いられる」(The Profits Most Who Serves Best)。これをやらに具体的に表現すると、利益を追求する企業にあって、取引に関わる全ての関係者に満足を与えるよう配慮する事が企業の繁栄に繋がるのです。

即ち

1. お客様には正直、親切に
2. 従業員には公平な待遇を
3. 同業者には信義と友情を
4. 仕入先には誠実な取引を、

という様な、みんなに喜ばれる企業運営が発展、繁栄に繋がるのです。企業の利益だけでなく、取引に関わる全てに利他心（サービス）を持って当たれば永続的な発展という報いがあるという事を教えているのです。この棟に企業にサービス・奉仕の理想を受け入れる事によって職業の道徳的水準を高める事につながるのです。自己の判断の基準として「四つのテスト」があるのです。

このようにしてロータリアンの企業が発達するだけでよいだろうか？

ロータリーは地域社会への貢献を目指していることから、出来得れば「職業倫理の向上が企業を永続させる道である」ことを同業者、友人などに伝

え、分かち合うことで業界の道徳的水準の高揚が得られるのではないか。これらを伝える場として、同業組合、商工会議所などが考えられる。

5. 現在の世相と職業奉仕

ヨーロッパにおける資本主義はドイツのマックス・ウェーバーが唱えた「プロテスタンティズムの倫理と近代資本主義の精神」に、資本主義はプロテスタンティズムという倫理観をベースに世の中の役に立つことを目指している。片手にソロバンを持てば、片手にバイブルというように、ソロバン勘定だけでビジネスは動かない。やはりある種のバイブルの様な倫理的な抑制が働いていたのです。資本主義が発達すると、いつの間にか利潤追求が自己目的化してきたのです。マルクスが批判したのは、まさに利潤追求に明け暮れる資本主義の経営者にむけてであり、経営者はすべて悪玉であるという前提の上に理論が成り立っていたのです。

しかし、資本主義が世界の主流となった現在、果たして正常な形で資本

主義が機能しているだろうか。資本主義は自由主義経済そのもので自由競争です。即ち、弱肉強食の世の中です。別の面から資本主義をみれば大量生産、大量消費で、まだ使えるものを大量廃棄して、新しいものに取りかえるというようなサイクルで成り立ち、有限の地球資源、エネルギーを消費し、地球環境の汚染悪化につながっている。さらに人工的な排気ガスで太陽の紫外線を防御するオゾン層の破壊が進んでいる。日本では1980年後半から金儲けに狂奔してバブル景気を生み、その後、日本経済は長期に亘る不況に喘いでいる。このような現状を直視するとき、自分さえよければ他人はどうなってもよい、という利己主義だけでよいのか、自分の欲望を貫くと他人と共にやっていけない。他人に対する思いやりこそが人間関係の根幹であり、これが近代の道徳なのです。

ロータ

リーは近代道徳を育成しようとすることを目指しています。即ち人間中心の考え、人間同志の共存、を主体とした資本主義、即ちマックス・ウェーバーの語った倫理観のある資本主義への回帰が望まれています。

これを可能にするには、実業人一人一人の倫理観を高めることにあり、

これを可能にするには、ロータリーの実業倫理思想を広く実業の世界に広めていくことにあるといえるのです。会員増強の意味は立にあるのですが、この事を新しい会員に十分に情報として伝えることが大切なのです。

6. 栄光に輝くロータリアンたちの幸福

私が若い頃、感動を受けた貴重な体験を申し上げましょう。1967年10月、RI第365地区大会が白浜観光会館で開催されました。

D2640、D2650、D2660が同一地区であった頃で大阪、京都、和歌山、奈良、滋賀、福井の各府県から多くのロータリアンが集まりました。平沢ガバナーは本会議のアドレスで感銘深いスピーチをされましたが、その一部をお伝え致します。

「私はここに参集された皆さんと共に、天を仰いで5つの幸福に感謝したいと思います。」

第1は 人間たる幸福であります。10億年の地球の歴史の流れの中で、その頂点である人間に生まれたことの幸福。

第2は 健康たるの幸福であります。肺も心臓も60兆の細胞もそれぞれバランスを保ちながら機能し、精神力も充実して活動している幸福。

第3は 職業に成果を持つ幸福であります。皆さんと同様に、天から与えられた、天職に恵まれ、活躍し、成果を持つ幸福。

第4は 家庭の理解を持つ幸福であります。よき家庭人たらずして、よき社会人たり得ない。生涯の基本である家庭の理解を持つ幸福。

第5は ロータリアンたるの幸福であります。栄光に輝くロータリーのメ

ンバーであること、超我の奉社を胸に、良き人生を生きる道であるロータリーの一員である幸福、これはなにもものにもかえ難いものであります。

私達は、この5番目の幸福をしみじみと感じさせ、教えてくれるロータリーをここまで育て上げられた偉大な先輩達の組織力と生命力に敬意と感謝を捧げたいと存じます。」

この素晴らしいスピーチの中から、私は色々の事を学びました。人間としての幸福に感謝を捧げる謙虚な心、多くの先輩の努力と善意に敬意を捧げる心。それにもまして私に深い感銘を与えたものは「万物の霊長である人間に生まれたこと、健康で日々活躍出来る歓び、天職に恵まれた幸福、良き家庭に恵まれた幸福という人間の幸福の最も基本的な条件と同じレベルにロータリアンである幸福を位置づけておられる」という点でありました。私は多忙な仕事に追われ、週1回の例会出席が重荷で義務感と惰性、無関

心で過ごした数年間を顧みて、平沢ガバナーから長年にわたり教えられた中から徐々にロータリアンになったように思われます。「ロータリーから大きい感動を受けた時、ロータリーの中から素晴らしいものを見出し出した時、本場のロータリアンになるのではないでしょうか」

ロータリーは今、会員数の減少に直面しています。多くの先輩の努力によって、他に例のない素晴らしいロータリーを私達に贈って頂いた。このロータリーの組織、思想、哲学を変質することなく、次の世代に伝えて頂くのは、皆さん一人一人の肩にかかっています。ロータリーにとって最も大切な例会を楽しみ、お互いに学び合い、人の為に尽くすというロータリーで身に付けた倫理観を実業に、社会に及ぼして頂きたいと思えます。「ロータリーは親睦の中から自己を啓発する生涯教育の場なのです」。皆さんと共に学んでいきたいと思っています。

7. 21世紀ロータリーは…その道標となるもの

戦前のロータリアンは、ロータリーの思想に心から惚れ込んでいた。戦時色が濃くなった昭和15年、日本のロータリーは消滅したが、会員の有志はロータリーの理念に憧れ、東京水曜会、大阪金曜会などを組織して、隠れキリシタンのように身の危険を犯してまでロータリーの心を守り続けたのです。大阪金曜会の会長を引き受けた飯島幡司さん（朝日放送）は、憲兵が度々家へ押しかけるのを耐え忍んでロータリーを守り続けたのである。彼は金曜会会長の心境として「ロータリー精神は我々が人類の一員として生きていく限り軽んずべからざるものだ」と信じたからである」と語っている。昭和24年、日本のロータリーは国際ロータリーに復帰し、今日のロータリーの発展を築いたが、その基礎にあるものは戦前のロータリアンがロータリーに抱いていた強い熱意と実業倫理思想への憧れにあると考えられるのです。

飯島さんは、私がガバナーノミニ時代（1982年4月、地区大会においてロータリー在籍50年の表彰を受けられた。私は戦前ロータリアン

のど根性を見た思いであった。私達の先輩は多くの苦難を克服して、他に例のない素晴らしいロータリーを私達に贈ってくれたのである。21世紀のロータリーは、現在この場におられる若いロータリアンが飯島幡司さんのようにロータリー精神は、我々が人類の一員として生きていく限り、どうしても守らなければならぬ大切なものとして堅持し、活動していかれることにあります。皆様に先人の築いた英知のかずかずを永く永く護り、育て上げて頂くことを心から願っています。

飯島さんは在籍50年の心境として「ロータリーは人の道ですね、死ぬまでロータリアンの道を捨てません。ロータリーは持ちまわりで、仲良く働いて、社会のお役に立つことです。

自分に与えられた全てに感謝します。あと4年で100才です」と語っている。このような心境になりたいものです。

ご静聴有難うございました。

筆者プロフィール

戸田 孝

大正15年1月7日生

大阪大学工学部 卒

株式会社トヤマビル 取締役社長

1962年 八尾ロータリークラブ入会

1970年 同クラブ 会長

1982年 国際ロータリー第2660地区ガバナー

1986年 国際協議会グループ・リーダー

1987年 同上

1989年 シンガポール規定審議会 代議員

” ソウル国際大会 S・A・A

1992年 RIリージョナル・リーダーシップ・コーディネーター

” RI会長情報カウンセラー

” R I 職業奉仕実行グループ

1998年 ローターリー米山奨学会 監事

1999年 ローターリー財団恒久基金日本委員

2000年 R I 2004年国際大会副総括委員長

国際ロータリー会長代理として地区大会に臨席

(D. 2650 D. 2500 D. 2780 D. 2580)

京都 北海道 神奈川 東京

戸田奨学会 会長

大阪工業会 常議員

大阪大学工業会 理事

編集後記

大阪大手前R. C. 2001～02年度

R 情報委員会 委員長 金子健一郎

本小冊子は当クラブロータリー情報月間にて戸田バストガバナーに卓話をお願いした折り、いただいた原稿をまとめようと思ったのが発端であります。筆者にご無理願ひ修正を重ねここに完成するに至りました。

戸田P Gのロータリーに対する情熱は凄まじく、原稿の修正を頂くたびにその熱意たるを感じました。内容の殆どが戸田P Gの経験に基づくものであり、新しくロータリーに入会された会員だけでなく、永年のロータリー会員にも非常に丁寧にわかりやすいものになっています。

広く会員の方にお薦めするとともに、戸田バストガバナーに対し、貴重な原稿を戴いたことに、この場をお借りして御礼を申し上げる次第です。

2002. 1. 18

参考文献 「決議23・34」

ロータリー章典 2007年2月

8. 040. 社会奉仕の基本原則
8. 040. 1. 社会奉仕に関する1923年の声明 より

ロータリーにおいて社会奉仕とは、ロータリアンのすべてがその個人生活、事業生活、および社会生活に奉仕の理想を適用することを奨励、育成することである。

この奉仕の理想の適用を實行することについては、多くのクラブが会員による奉仕にその機会を与えるものとして、さまざまな社会奉仕活動を進めてきている。以下に掲げる諸原則は、ロータリアンおよびロータリー・クラブの指針として、また、社会奉仕活動に対するロータリーの方針を明確に表すものとして適切であり、また管理に役立つものであることを認め、

これを採用するものである。

(1) ロータリーは、基本的には、一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務およびこれに伴う他人のために奉仕したいという感情とのあいだに常に存在する矛盾を和らげようとするものである。この哲学は奉仕―「超我の奉仕」の哲学であり、これは、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という実践的な倫理原則に基づくものである。

(2) 本来、ロータリー・クラブは、事業および専門職務に携わる人の代表として、ロータリーの奉仕の哲学を受入れ、次の四つのことを実行することを目指している人々の集まりである。

まず第1に、奉仕の理論が職業および人生における成功と幸福の真の基礎であることを団体で学ぶこと。第2に、自分たちのあいだにおいて、また地域社会に対しても、その実際例を団体で示すこ

と。第3に、各人が個人としてこの理論をそれぞれの職業および日常生活において実践に移すこと。そして第4に、個人として、また団体としても大いにこの教えを説き、その実例を示すことによつて、ロータリアンだけではなく、ロータリアン以外の人々のすべてが、理論的にも実践的にも、これを受入れるように励ますことである。

(3) RI は次の目的のために存在する団体である。

(a) ロータリーの奉仕の理想の擁護、育成および全世界への普及。

(b) ロータリー・クラブの設立、激励、援助および運営の管理。

(c) 一種の情報交換所として、各クラブの問題を研究し、また、強制でなく有益な助言を与えることによつて各クラブの運営方法の標準化を図り、社会奉仕活動についても、既に広く多くのクラブによつてその価値が実証されており、RI 定款に掲げ

られているロータリーの綱領の趣旨にかない、これを乱すような恐れのない社会奉仕活動によつてのみ、その標準化を図ることに。

(4) 奉仕するものは行動しなければならない。従つて、ロータリーとは単なる心構えのことをいうのではなく、また、ロータリーの哲学も単に主観的なものであつてはならず、それを客観的な行動に表さなければならぬ。そして、ロータリアン個人もロータリー・クラブも、奉仕の理論を実践に移さなければならない。そこで、ロータリー・クラブの団体的行動は次のような条件の下に行うように勧められている。いずれのロータリー・クラブも、毎年度、何か一つの主だった社会奉仕活動を、それもなるべく毎年度異なつていて、できればその会計年度内に完了できるように、後援するようにすることが望ましい。この奉仕活動は、地域社会が本当に必要としているものに基づいたものであり、かつ、クラブ会員の一致した協

力を必要とするものでなければならない。これは、クラブ会員の地域社会における個々の奉仕を奨励するためにクラブが継続的に実施しているプログラムとは別に行われるべきものとする。

- (5) 各ロータリー・クラブは、クラブとして関心があり、またその地域社会に適した社会奉仕活動を自主的に選ぶことについて絶対的な権利をもっている。しかし、いかなるクラブも、ロータリーの綱領を無視したり、ロータリー・クラブ結成の本来の目的を危うくするような社会奉仕活動を行ってはならない。そしてRIは、一般的な奉仕活動を研究し、標準化し、推進し、これに関する有益な示唆を与えることはあっても、しかし、どんなクラブのどんな社会奉仕活動にせよ、それを命じたり禁じたりすることは絶対にしてはならないものとする。

- (6) 個々のロータリー・クラブの社会奉仕活動の選択を律する規定は別

に設けられていないが、これに関する指針として以下の準則が推奨されている。

(a) ロータリーの会員の数には限りがあるので、ロータリー・クラブは、市民全体の積極的な支持なくしては成功しえないような広範囲の社会奉仕活動は、他に地域社会全体のために発言し、行動する適切な市民団体などの存在しない土地の場合に限り、これを行うこととすべきであり、商工会議所のある土地では、ロータリー・クラブはその仕事の邪魔をしたり、横取りをしたりすることのないようにしなければならない。しかし、ロータリアンとしては、奉仕を誓い、その理念の教えを受けた個人として、その土地の商工会議所の会員となつて活動すべきであり、また、その土地の市民として、他の善良な市民と一緒に、広くすべての社会奉仕活動に関与し、その能力の許す限り、金銭や仕事のうえでその分を果たすべきである。

(b) 一般的に言つて、ロータリー・クラブは、どんな立派なプロジェクトであつても、クラブがその遂行に対する責任の全部または一部を負う用意と意思のない限り、その後援をしてはならない。

(c) ロータリー・クラブが奉仕活動を選ぶ場合に宣伝をその主たる目標としてはならないが、ロータリーの影響力を拡大する方法として、クラブが立派に遂行した有益なプロジェクトについては正しい広報が行われるべきである。

(d) ロータリー・クラブは、仕事の重複を避けるようにする必要がある、総じて、他に機関があり、それによつて既に立派に行われているプロジェクトに乗り出すようなことをしてはならない。

(e) ロータリー・クラブの奉仕活動は、なるべく現存の機関に協力する形で行うことが望ましいが、現存機関の設備や能力が目的の遂行に不十分である場合には、必要に応じ、新たに機関を設

けることにしても差し支えない。ロータリー・クラブとしては、新たに重複した機関をつくるよりも、現存の機関を活用するこのほうが望ましい。

(f)

ロータリー・クラブはそのすべての活動において、宣伝者として優れた働きをし、多大の成功を収めている。ロータリー・クラブは地域社会に存在する問題を見つけ出すことはしても、それがその地域社会全体の責任にかかわるものである場合には、単独でそれに手を下すようなことはしないで、他の人々にその解決の必要を悟らせる努力をし、地域社会全体にその責任を自覚させて、この仕事がロータリーだけの責任にならないで、本来その責任のある地域社会全体の仕事になるようにしている。また、ロータリーは、プロジェクトを始めたり、指導したりするが、一方、当然それに関心をもっていると考えられる他のすべての団体の協力を得るように努力すべきであり、そして、当然ロータリー・クラブに帰すべき功績であっても、それに対す

る自分のほうの力を最小限度に評価して、そのすべてを協力者の手柄にするようにしなければならない。

(g) クラブがひと固まりとなつて行動するだけで足りるようなプロジェクトよりも、広くすべてのロータリアンの個々の力を動員するもののほうがロータリーの精神によりかなつていと言える。それは、ロータリー・クラブでの社会奉仕活動は、ロータリー・クラブの会員に奉仕の訓練を施すために考えられたいわば研究室の実験としてのみこれを見るべきであるからである。

(2004年11月理事会会合、決定59号)。

出典……RI年次大会議事録23・34、26
16、36-15、51-9、66-49

参考文献 「道徳律」

第6回国際ロータリークラブ連合会年次大会 1915年採択
全分野の職業人のためのロータリー倫理訓（道徳律）

この職業倫理基準は、我々の共通な人間性に基づく思いやりを心に留めるものである。職業上の取引や野望や諸関係は、常に社会の一員として自分が果たす最高の義務を考慮すべきである。職業生活のあらゆる場面において、また、自分が直面するすべての責任において、先ず最初に考えなくてはならないことは、その双方を終えたときに始めて果たされる責任と義務を満たすことである。人間の理念と業績の水準を、当初よりも少しでも高めなければならないし、このことを考えることこそ、ロータリアンとしての私の義務である。この見地から、本委員会は、国際ロータリーの職業倫理訓の基本は、次の原則に従うことに同意する。

第1条 自分の職業は価値あるものであり、社会に奉仕する絶好の機会を与えられたものと考えること。

第2条 自己改善を図り、実力を培い、奉仕を広げること。それによつて、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」というロータリーの基本原則を実証すること。

第3条 自分は企業経営者であるが故、成功したいという大志を抱いていることを自覚すること。しかし、自分は道徳を重んじる人間であり、最高の正義と道徳に基づかない成功は、まったく望まないことを自覚すること。

第4条 自分の商品、自分のサービス、自分のアイデアを金銭と交換することは、すべての関係者がその交換によって利益を受ける場合に限つて、合法的かつ道徳的であると考えること。

第5条 自分が従事している職業の倫理基準を高めるために最善を尽くすこと。そして、自分の仕事のやり方が、賢明であり、利益をもたらすものであり、自分の実例に倣うことが幸福をもたらすことを、他の同業者に悟らせること。

第6条 自分の同業者よりも同等またはそれに優る完全なサービスをすることを心がけて、事業を行うこと。やり方に疑いがある場合は、負担や義務の厳密な範囲を越えて、サービスを付け加えること。

第7条 専門職種または企業経営者の最も大きい財産の一つこそ、友人であり、友情を通じて得られたものこそ、卓越した倫理にかなった正当なものであることを理解すること。

第8条 真の友人はお互いに何も要求するものではない。利益のため

に友人関係の信頼を濫用することは、ロータリーの精神に相容れず、道徳律を冒瀆するものであると考えること。

第9条 社会秩序の上で、他の人たちが絶対に否定するような機会を不正に利用することによって、非合法的または非道徳的な個人的成功を確保することを考えてはならない。物質的成功を達成するために、他の人たちが道徳的に疑わしいという理由から採らないような、有利な機会を利用しないこと。

第10条 私は人間社会の他のすべての人以上に、同僚であるロータリアンに義務を負うべきではない。ロータリーの神髄は競争ではなくて協力にあるからである。ロータリーのような機関は、決して狭い視野を持つてはならず、人権はロータリークラブのみに限定されるものではなく、人類そのものとして深く広く存在するものであることを、ロータリアンは断言する。さらに、

ロータリーは、これらの高い目標に向かって、すべての人やすべての組織を教育するために、存在するのである。

第11条 最後に、「すべて人にせられんと思うことは、他人にもその通りにせよ」という黄金律の普遍性を信じ、我々が、すべての人にこの地球上の天然資源を機会均等に分け与えられた時に、社会が最もよく保たれることを主張するものである。

RI2680地区 PG田中毅 著
「ロータリーの源流」より引用

電子書籍版

『Rotary ってなんですか?』について

2002年に発行された2660地区PG戸田孝氏著、大阪大手前RC編集の小冊子『Rotary ってなんですか?』をより多くのロータリアンにお読みいただけるように電子書籍化（PDF版・ロータリー電子文庫）したものです。PG戸田孝氏のご許可をいただいで作成しました。

オリジナルに参考文献「決議23-24」「道徳律」の二つを付け加え、PC上で容易に閲覧できるように葉書サイズで縦書き編集・作成しています。

なお、大阪大手前RC発行のオリジナルは横書きで作成されています。

2007年3月 電子文庫作成

大阪南RC Y・木村



ロータリー電子文庫 作成 2007/03
大阪南ロータリークラブ

大阪大手前ロータリークラブ
ロータリー情報委員会